

「がん研究の新機軸」

日時：令和元年7月4日(木)- 7月5日(金)

場所：大阪大学微生物病研究所 谷口記念講堂

阪急電車北千里駅から徒歩15分、大阪モノレール阪大病院前から徒歩15分、北大阪急行千里中央駅からバス又はタクシーで15分

7月4日(木)13:00-18:15

所長挨拶 (13:00-13:10)

中川 敦史 大阪大学
蛋白質研究所

Session 1 (13:10-14:50)

腫瘍血管形成の真実に迫るレトロスペクティブ4Dイメージング解析

木戸屋 浩康 大阪大学

新たな高転移株樹立を通じたがん転移研究

中山 淳 早稲田大学

日本人がん患者4,000症例からみえてきた体細胞変異蓄積の偏りと腫瘍形成過程の関係

畠山 慶一 静岡がん
センター

臨床リン酸化プロテオミクスデータから、がん生物学の理解・治療標的の探索へ

阿部 雄一 愛知県がん
センター

—休憩—

Session 2 (15:05-16:20)

細胞内シグナル伝達系の可視化、定量化、光操作

青木 一洋 基礎生物学
研究所

時系列・一細胞解析から見える抗がん剤耐性獲得過程

間木 重行 大阪大学

HGF-Metシグナル伝達経路におけるHGF活性変換機構の構造基盤

有森 貴夫 大阪大学

—休憩—

Session 3 (16:35-18:15)

SBトランスポゾンを用いた大腸がんの転移に関与する遺伝子の同定

武田 はるな 金沢大学

がん悪性化モデルマウスとオルガノイドを使った解析：変異型p53のがんにおける新規機能

中山 瑞穂 金沢大学

細胞競合研究からがん発生研究へ

昆 俊亮 東京理科大学

マウスへの直接遺伝子導入による発がんモデルの構築

大西 伸幸 島津製作所/
慶應義塾大学

懇親会 (20:00-)

7月5日(金) 9:30-12:50

Session 4 (9:30-10:45)

RNA修飾はがんの悪性を促す

今野 雅允 大阪大学

がん細胞がアミノ酸欠乏に適応し悪性化する仕組み

大澤 毅 東京大学

データサイエンスとAIで迫る時空間オミクス研究の現在と未来

島村 徹平 名古屋大学

—休憩—

Session 5 (11:00-12:40)

酸素センシング機構の制御による間質細胞を介したがん悪性化

坂本 毅治 東京大学

相同組換えによる染色体安定性の維持機構

松崎 健一郎 近畿大学

チロシンリン酸化モデルに基づくKRAS制御機構の解明と治療応用の可能性

加納 嘉人 東京医科歯科大学

シグナル伝達の時空間的制御による組織再生とがん進展

梶原 健太郎 大阪大学

閉会の辞 (12:40-12:50)

梶原 健太郎 大阪大学

